

文化審議会世界文化遺産部会（第3回）

1. 日 時：令和2年11月5日（月）10：00～12：00
2. 場 所：文部科学省3階 3F1 特別会議室、WEB会議
3. 出席者：（委 員） 佐藤部会長、松田部会長代理、池邊委員、伊藤委員、岩本委員、大森委員、黒田委員、小浦委員、佐々木委員、鈴木委員、舘野委員、藤原委員、二神委員、本中委員、山田委員
（文化庁） 高橋文部科学副大臣、今里次長、杉浦審議官、豊城文化財鑑査官、伊藤文化資源活用課長、山田文化遺産国際協力室長、西川文化財調査官、鈴木文化財調査官

【佐藤部会長】 それでは、定刻となりましたので、ただいまより世界文化遺産部会を開催いたします。

本日は、我が国における世界文化遺産の在り方について、萩生田文部科学大臣名で諮問の上、御議論いただきたいと思っております。

では、まず事務局から、委員の出席状況及び配付資料の確認をお願いいたします。

【山田文化遺産国際協力室長】 では、まず委員につきましてですが、本日は15名の委員の皆様、4名はオンラインで御参加いただいております。また、本日は、我が国における世界文化遺産の在り方に係る諮問のため、萩生田文部科学大臣の代理として、高橋文部科学副大臣に御出席いただいております。

【高橋文部科学副大臣】 よろしくお願ひいたします。

【山田文化遺産国際協力室長】 配付資料につきましては、お手元に配付しております議事次第のとおりでございます。

議事に入る前に、オンラインの会議に当たりまして、事務局から改めて御連絡を申し上げます。オンラインで御参加いただいている先生方、御発言のとき以外はマイクをミュートにさせていただきますようお願いいたします。また、御発言の際は、カメラの前で実際に挙手をしていただきまして、部会長から指名されましたら、マイクのミュートを外し、名前をおっしゃっていただいて、御発言いただくようお願い申し上げます。

これはこの場にお越しいただいている先生方もそうですが、前回、傍聴されている方から、何名か聞きにくい先生がいらっしゃったということなので、ここに紙には書いてあります

けれども、マイクに垂直に、ゆっくり、はっきりおっしゃっていただければありがたいと存じます。

会議にいらっしゃる際、アクリル板を設けておりますので、マスクを外して御発言いただきますようお願いいたします。御発言の際には、マイクシステムがオンになって、ここが赤くなっていることを御確認いただいて、発言を頂くようお願いいたします。

以上でございます。

【佐藤部会長】 それでは、早速議事に入りたいと思います。本日は、我が国における世界文化遺産の在り方について、文部科学大臣名にて諮問をしていただきたいと思います。

まずは事務局から説明をお願いいたします。

【山田文化遺産国際協力室長】 資料1を御覧ください。1に諮問文がございまして、1枚おめくりいただきまして、通しの4ページでございますけれども、理由のところを簡単に御紹介いたしますと、1972年の採択以降、日本は、1992年の世界遺産条約締結後、これまで19件の文化遺産を世界遺産一覧表に登録しております。我が国も、文化財保護法を基盤とした文化遺産の保護手法について世界と共有を図れてきたものと思っておりますし、奈良文書をはじめとして、その発展にも寄与してきたと考えております。

このような取組を通じまして、認知度の向上、文化遺産に関する普及・啓発が進んできているとともに、諸外国の取組の情報を得るなど、新たな捉え方、保護に関する効果的な手法の導入が我が国でも進んでいるかと考えております。

次の段落ですが、また、自治体をはじめとする関係者の多大な尽力、財政負担の下に実現されているということもございまして、自治体の存在感が増しているということと、地域コミュニティの参画を促しながら、地域活性化をはじめとした多くの利点をもたらしているという点があると考えております。

このように、国際的にも国内的にも世界文化遺産に係る取組は大変重要であると、意義深いと考えている一方で、世界文化遺産を取り巻く状況は複雑化していると。次のページに参りまして、特に開発、紛争、災害等によりまして、世界文化遺産に関する様々な事例に関して、現在、議論が行われているということで、次の段落、我が国におきましても、少子高齢化等に伴います保存・活用の担い手の減少、開発行為等への対応、行政区域を越えた多様な関係者の連携など、様々な課題があると承知しております。

こういった持続可能な開発目標の中に位置付けられているということも踏まえまして、世界遺産一覧表の多様性・信頼性の向上に寄与しつつ、世界文化遺産の適切かつ持続的な保

護やその価値の発信に取り組んで、着実に次世代に継承していくことが重要であると考えております。

これらがこの諮問の理由でございまして、具体的には以下の事項を中心に御審議をお願いいたします。ここからは読み上げさせていただきます。

第一に、世界遺産一覧表に文化遺産が記載されることの意義について御審議をお願いします。

第二に、登録された世界文化遺産の持続可能な保存・活用の在り方について、以下の事項などについて御審議をお願いします。管理体制。開発事業等への対応。災害等からの復旧や防災対策。地域コミュニティの重要性。来訪者管理、これは新型コロナウイルス感染症対策も観点として含みます。次のページに参りまして、地域への貢献。情報発信。

第三に、世界遺産一覧表における文化遺産の充実に向けた取組について、以下の事項などについて御審議をお願いします。世界遺産一覧表の多様性への貢献や持続可能な保存・活用に鑑みた推薦すべき資産の考え方。国内の審査の在り方。推薦書提出後の諮問機関（イコモス）による審査等への対応の在り方。

最後、第四に、上記御審議の結果を踏まえ、必要に応じて、暫定一覧表見直しについても御審議をお願いいたします。

以上が当面、御審議をお願いしたい事項でございまして、関連する事項も含めて、幅広く御検討いただくようお願いいたします。

というのが内容でございます。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。

それでは、萩生田文部科学大臣に代わりまして、高橋文部科学副大臣から部会長への諮問文の手交に移りたいと思います。

【高橋文部科学副大臣】 文化審議会殿。次に掲げる事項について、別添理由を添えて諮問します。我が国の世界文化遺産の今後の在り方について。令和2年11月5日。文部科学大臣、萩生田光一。

では、どうぞよろしく願い申し上げます。

(諮問文 手交)

【佐藤部会長】 それでは、ただいま高橋文部科学副大臣から諮問文を頂きました。委員の皆様から、この諮問に関する御質問等ありましたら、御発言いただければ幸いです。先ほど山田室長から理由についての御説明を頂きましたけれども、いかがでしょうか。

【藤原委員】 よろしいでしょうか。

【佐藤部会長】 お願いします、藤原委員。

【藤原委員】 お世話になります。藤原でございますが、先ほどの諮問文の中の4ページ、パラグラフ4ですが、上から数えまして、3行目、「世界文化遺産における自治体の存在感が増しています」というところのその存在感というのが、前の行に、ありていに、財政的負担などのことが書かれた上での存在感というのがここにあって書いてありますが、私、毎回、この審議会では、自治体の負担の問題をかなりこれまで増してきたり、あるいは私どもがこの負担をむしろ創造的に解決していくには一体どういう工夫が必要だろうかということを中心に提言してきた者としては、この存在感というのがいま一つ分からないのです。

ここのところ、もし良ければ、本当にこの存在感という言葉でいいのかどうか、そのところを少し教えていただければうれしゅうございます。

【佐藤部会長】 お願いします。

【山田文化遺産国際協力室長】 ありがとうございます。これはあくまで文部科学大臣から先生方に対する諮問ということで、我々はこういった地方自治体の負担、それは時間的あるいは人、財政的なものも含めてでございますが、そのような負担が大きい。自治体の存在なしには世界文化遺産が成り立っていかないという漠然とした認識を持っておりまして、そのことを理由に書かせていただいて、これを我々文部科学省から先生方に諮問させていただいたので、それを受け止めて、改めてここの議論によりまして、方向性ですとか課題ですとかいうことをおまとめいただけるとありがたいなと思っております。

【藤原委員】 少し余計なことを言ってしまったかもしれませんが、今の御説明でよく分かりました。すなわち、自治体の主体的な役割や、あるいは介在の必要性が増しているということですね。ありがとうございます。

【佐藤部会長】 自治体や地域を含めて、持続可能な形での世界遺産のこれからの在り方について、この会でさらに議論していくということかと思えます。それでよろしいでしょうか。

ほかにございませんでしょうか。では、岩本委員。

【岩本委員】 私は、従来から、持続可能な開発、それから多様性というのがこれからのキーワードになるのではないかという発言をしてきましたが、それがこの文では、世界遺産一覧表の多様性ですとか持続的な保護制度というふうに、何か非常にテクニカルな話になってきているような気がしますけれども、実は文化というものが持続可能な開発のイネー

ブラーでありドライバーであるということの文脈の中で、持続可能な開発と文化財・文化遺産の保護を考えていかななくてはいけないということ、それと、世界遺産の保護ということが我が村の一番だという話ではなくて、日光は日光でこのような価値がある、エジプトのピラミッドはピラミッドでこのような価値があるというような多様性を学び合う機会にもなっているというスコープを、どこまで書くかどうかは別として、お持ちではないといけないうのではないかと思った次第です。

これは感想ですので、よろしく願いいたします。

【佐藤部会長】 これは、今、岩本委員がおっしゃったように、文化というものが持続可能な開発についての大変大事な原動力になるということは私たちも常に願っているところだと思いますが、そのような方向でこれから議論を深めていくということによろしいですか。よろしいと思います。どうもありがとうございました。

ほかにございませんでしょうか。オンラインの先生方も、ありましたら、御発言をお願いします。

よろしいでしょうか。それでは、今の諮問については、私たちがこれまで議論したことも一応踏まえていただいていると思いますし、具体的なことについてはこれからまた議論させていただくということで、お受けするという進めたいと思います。

それでは続きまして、ただいま諮問いただいた世界文化遺産の在り方について御議論いただくに当たって、事務局が論点案や今後の流れを整理しておりますので、まずは論点案等について御議論いただきたいと思います。

それにつきまして、事務局から説明いただきたいと思います。それでは、資料2で御説明をお願いいたします。

【山田文化遺産国際協力室長】 通し番号、通しページ、7ページ、資料2を御覧ください。前回、これをもっと簡単にしたようなペーパーを基に先生方に御議論を頂戴いたしました。その肉付けとその方策論について、前回の御議論を踏まえて書き加えたものが資料2でございいます。

「1. 論点」ということで、矢印のところは前回と同様でございます。どのような意義があるのかということで、丸を4つ、先生方の議論で頂いたものを書き足してございます。遺産の将来世代への継承、登録後の取組に向けた第一歩だということでございますけれども、あとは、我が国の文化財保護全体への寄与と文化財保護の仕組みの発信機会の拡大、新たな価値の発見、世界遺産を生かしたまちづくりというような具体的な意義について、御発言があ

ったかと承知しております。

2つ目の矢印のところの矢印の部分と丸の部分は前回と同じでございまして、ポツをその中身として、御議論を踏まえて足させていただいております。まずは、登録された世界文化遺産の管理体制についてでございますけれども、統括的な担当者、サイトマネージャーという御発言もありましたが、その重要性と、関係者の能力育成、成功事例の共有、基礎知識の周知と掲げてございます。

2点目、開発事業等への対応ということで、多層的な保護の実現、緩衝地帯の積極的な位置付けということを挙げさせていただいております。

災害等からの復旧や防災対策と、次に、地域コミュニティの重要性ということで、世界遺産についての教育による理解の増進と、ボランティアの積極的な参加による保存・活用の充実という点を追加いたしております。

来訪者管理というところでございますが、多言語による解説などの適切なインタープリテーション、収容人数等の観点を含む中長期的な戦略、SNS等を活用した情報発信ということを挙げてございます。

最後、地域における世界文化遺産の貢献ということで、各地域住民等の誇りや地域愛の醸成、持続的な経済的効果の獲得ということの内容として追記いたしております。

次の矢印ですが、世界遺産一覧表の充実に向けた取組ということで、世界遺産一覧表の多様性への貢献や持続可能な保存・活用に鑑みた推薦すべき資産の考え方ということで、新たに4つポツを足させていただいております。学術的価値の重視、世界の動きを先取りした多様な資産の発見、国際的な観点からの価値の証明、テーマ、分野の適性ということを追記いたしております。

次のページ、通しで8ページを御覧いただきまして、ここは先生方の前回の御議論を踏まえて事務局で新たに追記させていただいた部分でございますので、こちらについても御議論を賜われればありがたいと思っております。

まずは、適切かつ持続的な保存・活用を実現するための方策ということで掲げておりますけれども、1つ目は、既に登録された資産の保存・活用の充実の在り方についてということで、どういう方策があり得るかということで、ここでまさに御議論いただきたい1つ目の丸のところですが、保存・活用の在り方の提示、周知ということと、これも我々の方で2つ目、書き加えておりますが、例えばこの部会のような先生方、専門家と我々方で、定期的にそれぞれの遺産を拝見しにあって、チェックをして、いいところ、ここはいいねと、あるいはこ

こは課題だねというようなところを直に確認してはどうかということ。例えばその際に、その場でシンポジウムを開いていただいて、先生方に御登壇いただくなどして、それをいい機会に世界遺産について議論を深めてもらう、周知をしていくということ、また、我々のホームページでも、いい面、他のサイトでも参考にできそうな面を発信していくということがあり得るのかと思っ、書いておりますが、ほかにもいろいろ、こんなやり方をしてはどうかということがございましたら、是非御議論いただければありがたいと存じます。

2つ目の矢印でございますけれども、これからの推薦に当たって、持続可能な保存・活用をしていくということを含めて、この部会でどう御議論いただくかという観点、判断の基準を追加してはどうかということですのでけれども、遺産管理の体制ということで、サイトマネージャーの話が何度か出たと思っておりますが、統括的な担当の有無や各構成資産を含めた担当者の質・数、他部局や外部機関との調整合制ということ为例示しておりますが、このようなことをしっかりとこの部会で御覧いただいて、暫定への追加だったり、実際の推薦だったりにつなげていってはどうかということでございます。

次は、遺産影響評価（HIA）を適切に実施する予定であるところを優先的に追加する、推薦することとしてはどうかということ。

3点目は、地域コミュニティの参画と遺産から生じる多様な利益の活用について、例えば包括的保存管理計画の中に盛り込まれているかということもここでチェックしていただくことについて、どうかということ。

最後でございますけれども、世界遺産一覧表への記載後も含めた、関係自治体がしっかり対応するという意向があるかどうかと。登録までは皆さん熱心ですが、登録後に人を剥がす、予算を剥がすというようなことをしてしまうと本末転倒なので、ある程度、うちはそうではないぞというような意気込みがあるかどうかということのも、この場で推薦あるいは追加に当たって御覧いただくということがあるかどうかということ掲げさせていただいております。

「3. スケジュール」は、前回お示した内容と変わってございません。

事務局からは以上でございます。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。ただいま世界文化遺産の在り方に関わる検討についての論点、それから持続可能な保存・活用を……。

ただいまの段階で、御出席いただきました高橋文部科学副大臣が所用のために御退席されるということですので、よろしく願いいたします。

【高橋文部科学副大臣】 恐縮でございます。では、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

【佐藤部会長】 それでは続きまして、ただいまの御説明に対して、論点については前回までに私たちがいろいろ議論したことを踏まえて書いていただいておりますけれども、さらにこれにいろいろと付け加えることがあるかということ、それから2番目の持続可能な保存・活用を実現するための方策、具体的な方策については、これはさらに充実するためのいろいろな御意見を賜りたいと思っております。いかがでしょうか。論点の方でも、これからの具体的なイメージの方でもよろしいかと思っておりますが、御意見、御質問ありましたら、お願いします。

では、鈴木委員、お願いします。

【鈴木委員】 鈴木です。世界文化遺産の既登録のところ、富岡製糸場の保存・活用にずっと関わってきている者ですが、その経験も踏まえて申しますと、2つ目の一覧表の充実に向けては、学術的価値の重視ということが言われているわけですが、実際、登録後に保存整備、また、その活用に向けていろいろと調査をしていくと、さらなる学術的価値というのがいろいろ見いだされてくるというところがあります。

その学術的価値というのは、この枠組みで見ると、いや、そのつもりでお書きではないでしょうが、登録のところまでは学術的価値でいって、その後はそれを普及する方に重点が置かれておりますが、さらなる学術的価値を探求していくというか、そのような遺産の学術的価値の研究を続けるという要素もあった方が、管理者の能力育成とか、あるいはさらなる活用、持続的に資産を活用していく上では、良いのではないかと思います。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。これは私も感じるがありますが、登録された後も、調査や研究が進んで、新しい価値みたいなものが明らかになって、要は世界遺産としての価値のさらなる増加みたいなことがあって、だから、登録された段階で価値が凍結しておしまいでなくて、さらにいろいろな形で歴史の研究や、あるいは調査が行われることによって明らかになって、さらに価値が高まる。価値を高めるということが登録後は重要ではないかと私は思っておりますが、その点、事務局の方では何かお考えありませんか。

【山田文化遺産国際協力室長】 ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思っております。我々も1ポツの一番上の世界遺産一覧表の意義のところ、新たな価値の発見と、これはもちろん登録前のOUVをどう説明していくかということも含めて、書かせていただいているところもありますけれども、その後、登録後も持続的に価値の再発見を続けていただく

ところ、御指摘のとおり、大変重要だと思っております。ありがとうございます。

【佐藤部会長】 ですから、管理体制ということですが、管理というのは決して後ろ向きとか現状維持だけが目的ではなくて、さらに価値を高めていくことも含めた管理体制を考えていくべきではないのかとも思いました。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

本中委員、お願いします。

【本中委員】 ありがとうございます。少し喉の調子が悪いので、聞き苦しいところがあるかもしれませんが、お許してください。

前回発言したこととも少し関連しますし、また、先ほど岩本委員からあった御意見とも少し関連しますが、論点整理のフレームについて2点ほど、お願いといたしますか、申し上げたいことがあります。

前回の部会で提示された資料によりますと、このたびの検討に際してのキーワード、これは多様性と持続性の2つなのだという事は私も理解しておりました。したがって、検討の過程を踏まえて、最終的に何がしかの形で文書がまとめられるのだとすれば、このキーワードによってその全体が貫かれていることが理想であろうと考えていました。

ところが、7ページを見ていますと、1の論点のうちの2つ目の矢印では、保存と活用に関して持続可能性のキーワードだけが記述されているのに対して、3番目の矢印では、多様性と持続可能性の双方のキーワードがそれぞれ見られます。その一方で、最初の矢印に戻りますと、この2つのキーワードのいずれにも言及されていないと。また、8ページの2の方策（イメージ）では、持続可能性のキーワードだけになっています。

1の論点、それから8ページの2の方策（イメージ）の双方において、果たしてこの2つのキーワードが整合的に貫かれているのだろうかという疑問を私は抱いてしまったということでもあります。

世界遺産の保存と活用の項目には、現在の文章では持続可能性のみが関連付けられています。地域に固有の、これは日本に固有の、あるいはアジアに固有のものと言っていると思いますが、保存・活用の手法が多様性の観点からも緊密に関係しているのではないかと思います。いかがでしょうか、どうでしょうかというお尋ねです。

国際的にも認められた様々な共通のスタンダードがありますけれども、それに基づきながらも、アジアや日本に固有の保存・活用の手法もあるのではないかと思います。

私には、ここに論点として挙がっているものはほぼ網羅的に尽くされているようには思

いますけれども、一つ一つの項目に2つのキーワードがどのように関係しているのか、それは先ほど岩本委員がおっしゃった、この2つのキーワードをどのように定義するのかということとも関連しているかと思いますが、その辺りを再検討する必要があるのかどうか、もう一度御検討いただければと思います。

1の論点のうちの最初の矢印の3つ目、先ほど言及がありました「新たな価値の発見」という項目ですけれども、私の考えでは、ここに多様性と持続可能性の2つのキーワードを掲げできないだろうかと思います。なぜかという、歴史文化とその反映として生まれてきた文化遺産、それを継承してきた地域社会の固有性に注目しながら、それらを多様性と持続可能性を踏まえた新たな価値の発見ということが求められるのだろうと思うからです。

この項目には、多様性と持続可能性の両側面からというサブタイトルを付け加えたほうが良いのではないかと思いますけれども、いかがでしょうか。

以上です。

【佐藤部会長】 貴重な御意見ありがとうございます。これについて事務局からお願いします。

【山田文化遺産国際協力室長】 御指摘ありがとうございますとしか申し上げられませんが、大変重要ですし、今日ここまでの議論もかなりそのような御意見がございまして、御指摘のとおりだと思います。

我々も多様性、持続可能性ということがキーワードになることは間違いないと思っておりますが、それをここにどう落とし込んでいくか、我々の中でも議論が十分に尽くせていない部分がありますので、先生方の御指摘を踏まえて、一本筋の通ったものを事務局として御提案をできるように努力いたしたいと思っております。ありがとうございます。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。

どうぞ、お願いします。

【西川文化財調査官】 ありがとうございます。今、頂いた御意見、自分ももう一度考えてみたいと思いますが、本中委員の言われた保存・活用手法における多様性の側面という意味では、これまでの部会でも御意見いただいておりますが、登録後、日本における様々な世界遺産で、その地域の文化遺産の特徴に合わせた、若しくは地域社会に合わせた様々な取組がされていることをもっと世界に向けて発信していくこと、これがひとつ、保存・活用の多様性、世界におけるそのような多様なものが存在するという情報を発信していく1つの貢献になり得るのかと思われましたので、その点も含めて考えていきたいと思っております。

【佐藤部会長】 1番の論点のところでも、多様性についてももう少し御配慮いただくということと、2番の保存・活用を実現するための方策としても、もう少し多様性について配慮があつていいのではないかということかと思えます。貴重な御意見、どうもありがとうございます。ありがとうございました。

続きまして、藤原委員、お願いします。

【藤原委員】 さらに今ほどの保存・活用の在り方に関して、1つ、これは加えるべきかどうか御検討いただきたいのですけれども、文化芸術基本法がかつての文化芸術振興推進基本法を改正するような形でできて、現在、各都道府県あるいは既に基礎自治体におかれましても、文化芸術基本計画のような大綱や、あるいは計画策定をやり出しているわけですが、実は世界遺産を有している、あるいは世界遺産を将来求めている自治体におかれては、その計画の中に世界遺産絡みの話を書いていきたい、書いていこうとしておられます。しかし、私は実際にその会議に参加するような場面の中で、少し違和感を覚えることが何回かありました。

これは文化政策上の問題になるわけですが、各都道府県の大綱あるいはそこから落とし込んでくる基礎自治体の計画の中に数値目標を書こうとしたときに、世界遺産に関しては、来訪者や参会者というのでしょうか、その場に来る方の数字を増やそう増やそうとする努力がまま見られます。しかし、そこには根拠が必要なわけですし、来訪者の年間に訪れられるキャパというか根拠数値みたいなもの方法論を、恐らく都道府県あるいは自治体は十分お持ちではないと思います。しかし、それは増やさないと、例えば文化芸術に関する予算を都道府県で獲得する上での根拠に乏しいから、逆にその予算獲得に及ばないみたいな、大変御苦労されているような側面もあると思います。

そのような文化芸術基本法とのすり合わせ、あるいは文化政策とのすり合わせみたいなものがやはりとても重要ではないかと思えます。それは立ちどころにまちづくりや地域づくり、あるいは景観まちづくりみたいなものに、いわゆる基礎自治体の現場では直接影響を与えてくることですので、これを是非どこか、例えば地域コミュニティの重要性と書いてありますけれども、やはりそのもう一つ上の段階で、地域社会における文化政策と世界遺産のすり合わせ、あるいは相互連携、相乗効果というのでしょうか、そういったものを是非今回検討することができれば、ありがたいと思えます。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。今、藤原委員のおっしゃったことの中には、都道府県の大綱だとか市町村の文化財保存活用地域計画の中で、世界遺産について、ある種の

来訪者の増加を目指して、数字を掲げようとしているところもあるということですね。

【藤原委員】　　そうです。

【佐藤部会長】　　これについて、事務局のお考えはいかがでしょうか。

【山田文化遺産国際協力室長】　　まさに文化政策の世界遺産の保存・活用は一部に位置付けられる、本当は国全体でもそうあるべきですけれども、自治体ごとの統合的な文化政策の中で、単なるお客さん集めにとどまらない統合的な計画の中に位置付けて進めるということは大変重要だと、先生の御指摘のとおりだと思っております。

【藤原委員】　　よろしく申し上げます。

【佐藤部会長】　　恐らく今回のペーパーにも書いていただいているような、コロナの観点も含めた来訪者管理で言うと、必ずしも来訪者を極端に増やすことが是であるということではないような気もしますけれども。

【山田文化遺産国際協力室長】　　我々も、来訪者については、前回の資料でもお示しをしましたがけれども、登録の前後でぐっと伸びて、それが終わると、特に最近登録されたものに多い傾向ですけれども、すぐぴゅーんと下がってしまっただけで、今の関心としては、そこがとても密だよなということで、オーバーツーリズムになるし、来訪者にもいい環境で来ていただけない、だからリピートもしてくれないというような課題があるかと思えますので、そこをどううまく持続的に文化遺産を盛り上げていただけるような、しかも遺産の保存とも統合的な受け入れとはなんだろうか、ということのを是非ここで御議論いただけるとありがたいなと思っております。

【佐藤部会長】　　全体として恐らく海外からの日本の世界遺産への来訪者もかなり減っているように思いますので、そのような状況も含めて、どうあるべきかということは、しっかり考えていかななくてはならないかと思いました。ありがとうございます。

ほかに。では、お願いします。

【池邊委員】　　池邊でございます。2点ほど付け加えさせていただきたいなと思っております。7ページの上の論点の2ポツ目の丸のところに管理体制というのがございます。そこには統括的な担当者の重要性とか能力育成、成功事例、基礎知識の周知と書いてあるけれども、この場合にヘリテージマネージャーとは何ぞやというところで、今までのように、取りあえずと言っては変ですけれども、保全・活用を現状に即してできるというだけではなくて、将来的な収益とか修理が今後どれくらい発生していくかとか、長期的な展望の下に、全体的な10年後、20年後、そのような形で長期的にも見ていくような、もう少し、運用と言ったら変

ですけれども、実際にお金として入る部分とか今後必要となる部分とか、そのようなものを見ていけるようなマネージャー的な人間が必要なのではないかと考えております。

それで、それとも関係してくるのですけれども、今の世界遺産の見せ方というのでしょうか、展示手法、通常では結構発達しているようには見えませんが、本当に見る者に対して感動を与えるような見せ方とか、文化庁さんの今の言い方で言うと、ストーリーがきちんと読み取れるような見せ方、例えば今日、ヒアリングの中に出ている石見は、日本人にはなかなか理解が難しいと聞いておりますし、私の身近でもなかなか石見の価値は伝わっていないと感じておまして、展示手法とかをもう少し工夫する部分。

それからもう1つ、日本の中であまり重視されていないのは、保存・再生とか修復の技術、建築だとか絵画ですとか彫刻ですとかランドスケープとか、様々な分野の人たちが関係しておりますし、今回の例えば首里城なんかの修復に関しても、様々な知能と新しい技術ですね、最近ではガラスですとか樹脂ですとか、いろいろなものが修復・再生に使われているわけですけれども、そういったものの技術の開発、民間企業さんと文化財を通じてそのようなものを開発して、なおかつ、そのようなものに従事する人間を増やしていく。そのような部分の文化財、世界遺産を通じた新しい技術の獲得、そしてそれに従事する人間の確保、そういったものが必要とされるのではないかと考えたので、その点を追加させていただければと思います。

以上でございます。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。

今の点についてはいかがでしょうか。

【山田文化遺産国際協力室長】 ありがとうございます。大変重要な御指摘で、具体がないとやはり議論が進みにくいと思いますので、ヘリテージマネージャー、このようなことだということは、これは、姫路城とか法隆寺みたいな単体のものと、いろいろなサイトが複合的に登録されているものと、在り方が異なる部分もあるし、複雑な方がより重要性が増してくる部分もあるかと思っておりますので、是非その点も、ここでは統括的な担当者と書いていますけれども、その役割についても御指摘、御議論を頂いて、踏まえて、まとめていただければありがたいなと考えております。

【佐藤部会長】 ただいま池邊委員の最初の論点にもありましたような、10年後、20年後の在り方を見据えた考え方が必要だということは、私もそのとおりだと思って、議論がここ3年、5年の議論ではなくて、私は、短期、中期、長期で、もっと長い目でもヘリテージマネ

ージャーという方であれば見通していただきたい。文化財の仕事というのは、昔は1,000年だったり、100年、200年後まで文化財のことを考えて、ここ3年、5年のことも考えていただけるような、そのような視野の広さみたいなものが、今、目の前のことだけではなくて、両方必要ではないのかと実感しておりました。

ほかにいかがでしょうか。

では、小浦委員。

【小浦委員】 これまでの議論を踏まえて、論点として上がってきているものは、かなり網羅的に拾われていると思いました。多様性と持続性というのは全体を包括的に捉える論点として非常に重要ではないかと思っていて、そのときに、理由のところでも出ていましたけれども、人口構造が変化する中で担い手が減っていく、あるいは開発行為が散発的に起こってくる、これまでのような計画的な開発ではなくて、マーケットベースの散発的な開発が起こってくることだったり、いろいろな行政間の連携だったりというのは、地域が持続可能であるか、あるいは地域がいかに多様な生き方を選んでいくかという、地域の在り方とも大変関係しているところだと思うのです。ですから、資産が多様である、持続的であることは、その地域が同時に多様であり、持続的であるということと連動するという観点があるといいなと思います。

併せて、景観とか開発から保全をどのように考えるかというときには、開発を否定するのではなく、いかにその地域にとって必要な変化をうまく起こしていくか、世界遺産の資産の価値を損なうことなく、次の歴史を作っていくぐらいの、そういった変化として起こし得るかということでない、単なる凍結保存になって地域の持続可能性につながらない。

凍結保存しなければならない資産そのものの価値と、資産の持っている歴史的意味とか、その場所にあることの意味とか、そうした価値を保全する変化を求めるものがあり、それが多分影響評価では重要になってくる論点だと考えています。

バッファゾーンの話をいつもしていますけれども、資産を守るということと同時に、その資産のある場所の意味を保全するために必要なエリアをバッファとして位置付けるという発想がないと、景観的にも保全し得ないというか、対応しにくいですね。単にここからどれだけ見るとか見えなしかということではなくて、例えば京都でも、山裾の寺社というのは、山があって、歴史的な意味があって初めて成り立つ環境があって、だから、資産の周りだけをバッファにするのではなくて、意味を維持するためのバッファという概念もあると思いますね。

それは必ずしも、法的なバッファゾーンにするのか、地域の取組としてのバッファゾーンにするのか、いろいろなレベルがあってもいいと思うのですけれども、何かそういった多様性と持続性という観点で、個別の議論になりがちな項目をつないでいく、そのような観点を見失わないようにしたいと、今、お話を聞きながら思いました。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。これまでの議論の中でも、バッファというのが決して重要でないバッファということではなくて、とても重要で、これからは積極的に位置付けて、世界遺産の価値を高めるためのものとして、多様性や持続可能性の方で機能するものだという議論がこれまでもあったと思います。

これについてはいかがでしょうか。西川調査官。

【西川文化財調査官】 これについても引き続き考えていきたいと思いますが、今のお話を聞いていて思ったのが、視覚的な観点からだけでなく、文化的なつながりとか、そのような観点からの緩衝地帯の在り方を考える上では、文化庁で文化財保護法を改正して今進めております地方自治体につくっていただいている地域計画とか、そういったもので地域の多様な文化遺産を広く拾い上げて、そこからそういった文化遺産を生かしてどのように地域社会に貢献できるのかというようなことを検討しておりまして、そういった地域計画と世界遺産のうまい連携の仕方がないかどうかというようなことも含めて考えていきたいなと思っております。

また、文化遺産の持続可能な保護の在り方においては、地域社会の持続可能な在り方がまさに重要だと思いますし、ちょうど少しアナウンスにもなっていますが、『月刊文化財』の11月号では、世界遺産の登録後の取組に焦点を当てた特集を組んでおりまして、その中でも、長崎の大変高齢化・過疎化したところで起きている取組、まだ始まったばかりで、大きな効果はこれからというところだとは思いますが、そういった実際に取り組まれている取組を見ながら、こういった大きな方向性の中でどういうコメントができるかというのでも考えていきたいなと思っております。

【佐藤部会長】 どうぞ、小浦委員。

【小浦委員】 おっしゃるとおりだと思いますが、もう少し地域の持続可能性といったときには、どう生きていくかというときに、必ずしも文化財だけで解決できない、だけれども、文化財を守るためにはやらなきゃならないことがあって、そういった連携を、見据えてはどうかというのもあると、今、少し指摘させていただいたところです。

バッファは、特にそのようなところもありますので、いかに守っていくか、保全していく

かということの中で、価値を保全しつつ地域の持続可能性を高める変化の観点もあるのかなと思いました。

【佐藤部会長】 これからの、例えばこれは先の話になりますけれども、暫定一覧表をどう考えていくかというようなときも、今、小浦委員がおっしゃったような地域の生き方との観点から、ちゃんと方向性が見えているということがある方がいいかと、今少し思いました。

ほかにいかがでしょうか。

岩本委員。

【岩本委員】 この論点に関してなんですけど、3点ありまして、先ほど来、本中委員がおっしゃったような多様性、持続可能性をキーワードにして全体を通していった場合に、どういうことを我々はメッセージとして言えるかといった場合に、まず我々が基本に守っていかなくちゃいけない、育てていかなくちゃいけないというのは、文化遺産の文化的あるいは学術的な価値というものを守り、先ほどおっしゃったように、新しいものを追求していくということが根っこにあると思いますね。

その上で多様性とか持続可能性といった場合に、それは制度の多様性、可能性であると同時に、地域の持続可能性であったり、あるいは地域の多様性ということもある。そのような意味では、この論点整理、地域という言葉は幾つも出てくるわけですが、少し的外れかもしれませんが、国際発信というようなこともこの際考えてみる必要はないのか。

単にインバウンドの客が減って困ったなというのではなくて、日本ならではの文化遺産の保護の仕方、そういったものを国際的に発信していく、それが今度は国際的な意味での価値の多様性を認め合うことにつながっていくのではないかと。

そのような意味で、もちろん日本国内の好事例の交換というのも大事ですけども、内から発信して行って、逆に外国からもいい事例を学ぶということも、実はユネスコの条約の目指していることではないかと思うわけであります。それが第1点。

それから第2点目ですけど、これは少し細かい話になりますが、真ん中辺りに世界遺産についての教育による理解増進ということがございます。これは、文化関係者はこう書きますと、やはり文化は大事なのだと、それで終わってしまうけれども、教育関係者にしてみると、SDGsの4.7という中に、文化の理解というものが教育の質を高めるという、初めてこのようなメッセージが入ったわけですね。

ですから、文化の保護から、これは実は単に知識、そういったものを学ぶ教育ではなくて、包括的な意味での教育の質の向上にもつながっていくというメッセージが出せばいいな

と思います。

それと3点目は、前から申しますが、無形的な要素とのコラボレーションということ、これはどこで議論するのかはありますが、例えば地域における世界文化遺産の貢献といった中で、例えばそこで世界文化遺産を守っていくための技術の継承であるとか、そういったこととも併せて、各地でいろいろな取組が行われていると思いますが、そういったことも言及できればなと思います。

以上でございます。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。大変重要な視点で、3点目の無形とのコラボは、前回は岩本委員おっしゃったわけですが、これなどはやはり多様性の中で位置付けることが必要ではないかと私も思いました。

今の3点の御指摘について、事務局の御意見を頂けると。西川調査官、お願いします。

【西川文化財調査官】 日本の文化遺産の保護の取組の国際発信に関しては、私たちもできることから少しずつ進めていきたいと考えております。

今、定期報告、来年の夏、提出に向けて準備が始まっておりますが、今回の定期報告の質問事項の中には、従来ある遺産に影響を与えるリスクはありませんかとか、そういった項目以外に、国際的に発信できるような取組があれば記述してくださいという欄がありまして、自由記述ですけれども、そういったところも積極的に是非書いていきたいと、今、自治体の方ともお話を進めております。

そういったところから、各資産でやられている取組を通して、日本の文化遺産保護、しかもそれが守るだけではなくて、さっきの地域社会にどういうふうに関与していくかということも含めて、やられている取組を積極的に発信していくとともに、国際的な視点に対して、よりアピールできるような取組がされるように、国内でも情報共有していきたいなと思っております。

以上です。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。情報共有については、やはり既存の世界文化遺産同士での連携みたいなもの、グッドジョブの共有みたいなことも、少し書いていただいていると思いますが、さらに追求していただけるとありがたいなと思いました。

ほかにいかがでしょうか。

では、順番で、二神委員から。

【二神委員】 すみません、二神です。幾つか申し上げます。

論点1の2つ目のところで、災害等からの復旧や防災対策という内容が入っているのとはとてもいいと思いました。世界遺産委員会でも、あるいは無形文化遺産保護条約の政府間委員会でも、緊急時の世界遺産、無形文化遺産という話題が出ますが、国際会議などで話題になりますのは、どうしても声の大きい方たちが紛争地域の方という事情で、紛争の部分がとてもクローズアップされがちです。自然災害のファクターは非常に大きなものではありませんけれども、国際会議で話題になっているのがどうしても紛争地域になります。我が国のような自然災害が多い国で、果たして世界遺産の保全管理においてどういう対策をしているのかを発信できるというのは、非常に意義があるのではないかと思います。

例えば推薦書の審議のとき、地震があるけれども大丈夫かというような話も実際に出てきたりします。しかし、そのような質問は、審査する側の知識が足りないために起きている質問でもあるように感じています。実際このような対策を取っていて保全ができていて、あるいは、課題があるにせよ、こういった対策を取っています、と表明することが、必要ではないかと思いました。

もう1つ、岩本委員から無形文化遺産保護条約のお話が出ていましたけれども、実際、他の条約とのシナジーというのも世界遺産条約で話題になっています。無形だけではなく、例えば自然遺産だとラムサール条約や、ジオパークに言及されますが、必ずしも世界遺産の自然遺産だけに関連することではないと思います。文化的景観もございまして、立地もありますので、必ずしもジオパークと文化遺産が全く関係ないわけではないと思いますので、これらの条約とのシナジーという観点も必要なのではと思っています。

また、情報発信についてですが、世界遺産一覧表に記載済みの資産についての成功事例の紹介、とかいったことが書いてあります。それはとても大事なことだと思うのですが、推薦の過程における関係者への情報発信も、前にも申し上げたかもしれませんが、必要ではないかと考えています。

これも何度か申し上げていることではありますが、ふだんの文化財保護行政と全く違う内容のもので、自治体で世界遺産の推薦に携わる方に世界遺産についての知識が必ずしもあるとは限らないので、技術的な内容も重視することになり、また、瑣末な内容になってしまうかもしれないですが、関係者向けの世界遺産推薦の過程における情報発信の重要性も指摘しておきたいと思います。

【佐藤部会長】 ただいまの点については、いかがでございましょうか。

【山田文化遺産国際協力室長】 それぞれ大変重要な御指摘だと思いますし、肉付けをす

るに当たって参考にさせていただきたいと思ひますし、例へば自然災害への対応についてなどは、最初の1ポツの論点のところでも重要ですが、今後の暫定への追加だったり、推薦だったりということについても、そのような基準でちゃんと対応ができてゐるかどうかというのを拝見するというのも重要かということ、聞きながら思ひました。ありがとうございました。

【佐藤部会長】 推薦過程での情報発信も確かに、後発のところは随分気になるけれども、どうしていいのかわからないみたいなのは、先行のところは聞きにいかれたらいいと思ひますけれども、なかなかそのようなこともなさらないところがあると。

ある意味ではものすごく色々な苦勞をなさって、ようやく登録されたというところはいいと思ひますので、そのような経験が共有できるといいと思ひますが、なかなかそれがないですね。

【二神委員】 少しよろしいですか。話を聞きに行くことは皆さんしてはいらっしやると思ひますし、実際、成功された自治体の方も、話をしたい気持ちがあるとおっしゃいます。でも、そこにたどり着くまでの段階が必要な気がします。基礎的な知識が乏しい中でただ手を挙げてしまったという状況のところまで面倒を見るか。という話になってしまうかもしれませんけれども、やはり困っている方がいらっしやるのは本当に確かなことだと思ひます。そのため、このような取り組みも、もしかしたら必要かとは感じた次第です。

【佐藤部会長】 それでは、山田委員、先ほど手が。

【山田委員】 ありがとうございます、山田です。どこの部分で入れていただければいいのか分かりませんが、検討いただきたいというか、ここの場でも何度か出ていましたが、世界遺産という言葉は、どの人に聞いてもみんなよく分かっているように、非常に認知度が高いわけだけ、その内容が果たしてどこまで理解できているのかという点と甚だ怪しいというのはここで何度か議論になっていて、先ほど教育という話もありましたけれども、真っ先に登録された管理体制の中で総括担当者の育成というのがありますが、その前に、50年もたっているのに、世界遺産というのは本当に多くの方がどれだけ理解できているのかという点と、甚だ怪しいので、ここでもう一度、世界遺産とは何であるのかということ、もっと深く一般の人たちにも知っていただくということをもう少し言うべきではないかと私は感じております。

専門家レベルでOUVを含めた非常に高度な議論をしている一方で、先ほどあったように、世界遺産ならば来訪者が必要だからどんどん人を呼ばなきゃという政策面の方で突き進ん

でしまっているというようなこともあるという現実があるわけなので、そうではないのだというところも含めてやっていかないと、本当に持続性は保たれないのではないかと思う次第です。

それからもう1つ、日本から世界遺産にしたいという議論の中で出てくるときに、日本における価値付け、日本から見た価値付けということと、これは世界遺産リストに載せるわけですので、やはり世界から見たときにどうなのかというところのギャップが非常に大きいと思っていて、載せた限りにおいては、世界から内政干渉を含めて多くの干渉があつて当たり前で、もしかしたら危機リストに載せなさいという勧告さえ出てくるかもしれないということをもう少し踏まえて登録に向かうということをやはりやった方がいいのではないかと。自分たちの理屈だけではなくて、世界から見たときの理屈も踏まえて世界遺産にしていくのだということを感じていただくということが、今後、重要なのではないかと思います。

もちろん地域における持続性ということが大前提になるわけなので、そうした世界的な評価に耐え得るのかどうかということで、世界遺産やっていけるのかという、その辺のところも見据えないと、これはすばらしいからだけでは無理なので、それをある程度実証できているところが、今後、世界遺産になっていくことのあれになるのではないかと考えたりしております。

以上でございます。

【佐藤部会長】 様々な、ある意味では、手を挙げるときには、それなりの理解と自覚をお願いしたいというところかと思えます。

ほかに、オンラインの先生方から御意見がまだないですが。

今、手が挙がりましたので、伊藤委員、お願いします。

【伊藤委員】 どうもありがとうございます。伊藤です。

今日は音声の具合があまり良くなくて、委員の意見が全部聞けていないので、はっきり分かる先生と分からない先生がいて、多分オンラインの方々、皆さんそうだったのではないかと思いますけれども、議論の流れがちゃんとつかめていないので発言しにくかったです、すいません。

それで申し上げますと、やはり今回、文部科学大臣からこのような諮問を受けたということの背景として、日本で世界遺産が始まってそろそろ30年たつと。世界では50年たつということで、1つの曲がり角に来ているという認識は恐らく皆さん共有されているわけですね。

そこで、どういう問題点があるのかというところからまずスタートしなくてははいけない

ですが、問題点は諮問文の中に幾つかやんわりと入っていますが、それほどはっきりとは書かれていなくて、その辺りをもう少しクリアに一度出してみても、例えば最初の方で議論があった、今、19ですけれども、今後同じように増やしていくのかとか、ここ10年ぐらいでどれぐらいの候補を挙げていくのかという議論はやはり早めしておく必要があるし、それから、これから世界遺産を担っていくための地方自治体の体力ですよ、その体力もなかなか厳しいものがあるという問題をどう考えるかというテーマ。それから一番大きいのが、つい国内的な問題に議論が収縮しがちですけれども、先ほど来、何人かの先生がおっしゃったように、国際的なコンテキストの中で日本がどう貢献できるかということですね。そこがやはり一番重要な議論で、論点の1番目に出てくるところに、新たな価値の発見とかまちづくりとか出てきますけれども、やはり何だかんだ言っても、世界遺産というのはとても分かりやすい、リテラシーの高い文化財で、多分世界からいらっしゃる方はまずそこを入口として日本に入ってこられることが多いと思うのですね。

そうすると、観光とか、そのようなことは別にして、日本という国が持っている文化財なり遺産というものが、世界にきちんとした形で提示できているかどうかという問題は、やはり私はまだまだ全然足りないと思っていまして、そこのブラッシュアップの問題があって、実は一度聞きたかったのですが、世界のそれぞれの国がこの同じようなテーマに対してどういう戦略を考えているのかという、私はやはり日本は、たくさんは登録できないと思いますけれども、少ないけれども最善の選び方をしているといえますか、とても精緻にきちんと考えられて世界遺産が選ばれているというところは、日本の勝負の仕方だと思うので、中国やヨーロッパのようにたくさんは選べないけれども、本当にこの少ない中で、それが大変多様で、しかも、例えば一度、姫路城を見たら、今度は日本中のお城を見るとか、一度そこを入口として入ってきた人が、言わばネットワーク状に日本の文化全体に到達できるような仕組みというのですか、そのようなことも十分できていないような気がしますし、国内的なことはもちろん重要だし、支えていかなければならないのですが、やはり世界条約ですから、その中での役割というものをこの諮問の中にはきちんと位置付けるべきで、論点の最初のところにそれは必要だろうと思いますね。

ですから、論点の最初のところに、世界遺産一覧に登録されることの意義は何か、やはり世界貢献だと思います、僕は。だから、世界貢献をしないことには、一番大事なところを外していることになるという気はします。

勝手なことを申し上げまして、すいません、以上です。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。多様性、持続性というのを今日考えてきたわけですが、その前に国際性というのがあるのではないかというようなお話だと思いました。また、国際的な貢献について、日本の文化遺産がどう発信できているかというようなこと、あるいは世界諸国は今どういう状況にあるかというようなことについて、事務局から御説明を頂ければと思います。

【山田文化遺産国際協力室長】 まず、すいません、通信環境が悪いというところ、前回に引き続きまして大変御迷惑をおかけしていることについて、心からおわび申し上げます。

特定の委員の発言が聞きにくい感じですか。それとも全体的にぶつ切りですか。

【伊藤委員】 特定の委員ですね。声の小さい方がそうなのか、私の方では部会長の言葉とか、それから事務局の方々の声ははっきり聞こえたのですけれども、女性の方で何人か聞き取りにくいのがあったりとか、ぶつ切りの音がありましたので、委員の中で何人か聞き取りにくい方がいらっしゃいました、私は。ほかの方はどうでしょうか。

【山田文化遺産国際協力室長】 かしこまりました。大変御迷惑をおかけしました。私、近付け過ぎぐらいかもしれませんけれども、是非先生方もマイクを近付けて御発言していただければと存じます。ありがとうございました。

部会長にまとめていただきましたけれども、国際的な観点、世界貢献ということこそがこの条約の意義の大きな1つだろうと思いますので、この意義の中でどのように取り扱うか、我々としても検討させていただきたいと思います。

【鈴木文化財調査官】 委員の先生方もそうですし、今日ここに映っていない中で、50人ぐらいの自治体の方、メディアの方も御覧になっているということで、私も一生懸命マイクに近付いてしゃべろうと思います。

伊藤先生から御質問がありました各国の戦略というところですが、それぞれのお国の本音というのは、つぶさには分からないところはあると思いますが、あくまで表に出てくる部分としては、2つの傾向があるのかと。

1つは、これまで世界遺産一覧表に反映されていなかった、でも、人類の歴史、人類の文化を考える上で欠かすことができない分野の登録を積極的に進めようというような流れはあろうかと思います。例えば昨年の世界遺産委員会では、イギリスの天文台が登録されたりであるとか、あるいは、人類のつながりとしての道ですね、シルクロードなんかもそうでしょうし、アンデスの道なんかもそうだと思います。そのような、これまでモニュメント的なものが登録されるというような傾向の中で、ただ、人類史として反映させなければいけない

分野を推薦していこうというようなことは、ひとつ間違いなくあるのかと思います。

もう1つとしては、それと対極のように見えて、同じトラックの中にあるとは思いますがけれども、これまで注目されてこなかった、例えば先住民の方の文化であるとか、あるいは生活文化というようなところの登録は、近年、出ているのではないか。もちろんお国としてそのような政策を進めているというようなこともあるのでしょうかけれども、例えばオーストラリアのバジ・ビム、アボリジニの方の養殖漁業に関する文化であるとか、あるいはカナダのピマチオウィン・アキ、あるいは近頃ですと、デンマークの推薦でグリーンランドの資産なんかも1つ、2つ出てきて、マイノリティーといいますか、先住民といいますか、そのような、でも、自国にとっては大事なもの、あるいは世界の人類の多様性という観点で推薦されている、登録されているものというのは、一定数あるのかという気はしております。

あくまでナショナルな観点というのは、このような場面というのは表に出てきにくいところがあって、その推薦、その遺産というものが、人類にとって、人類史にとってどういう意味があるのかというようなことが、少なくとも建前としては堅持はされているのかと捉えております。

【佐藤部会長】 今まで未登録分野だとか、今まで注目されてこなかった分野への注目というのは、多様性というところで、やはり今回、大事かと思いました。

ほかに御意見、いかがでしょうか。

松田委員、お願いします。

【松田部会長代理】 松田でございます。今のところ、論点は資料2でいう1の論点に集中していて、2の話があまり出ていなかったかと思いたのですが、本日は2も議論しようということでしたので、幾つか発言させていただきます。

1の論点は、大きな方向性といいますか、そういったものを検討するのに対して、2は具体的に方策を考えよということだと思います。私が思いましたのは、そのうちの矢印の1番目、既登録資産の保存・活用の充実のところですが、これの丸でいう1番になるかと思えます、保存・活用の在り方の提示・周知のところ、既に登録されている日本の世界文化遺産を見ていて感じるのは、どこもそれなりにインタープリテーションを頑張っているのですが、まだまだ多言語化が弱いということです。

うまく行っているところもちろんありますけれども、全体としては弱いような気がしております、恐らく皆様も、日本語の説明はとても充実していて、ストーリーもしっかりしているものの、その翻訳文を見ると、3分の1ぐらいになっていたり、随分と量が少な

かったり、全く説明がなかったりというような例を御覧になったかと思います。やはりここは強化する必要があると思っております。

その上で申しますと、2019年3月ですから年度でいうと2年前に、文化庁の地域文化創生本部が作られた「文化財の多言語化ハンドブック」が良くできていると思います。一般的にはこういったハンドブックは概論のみを示している、正直あまり役に立たないことが多いですが、このハンドブックは非常に具体的で分かりやすく、気付かされることがたくさんあります。現場で世界文化遺産をマネージされている方にとっては、多くの知見が得られて、多言語化の向上の仕方が具体的に学べるのではないかと思います。ぜひこういった素材を使って多言語化を進められるといいかと思います。

また、インタープリテーションの多言語化の現状を把握するためのデータがあまりそろっていないかと思いますので、各世界遺産サイトにおいて多言語化がどこまで進んでいるのかのデータを集めてみるということも良いのかと思いました。

それと、矢印の2番目、持続可能な保存・活用の観点から熟度の高い案件の推薦に関して申しますと、これは今後どういった案件を推薦するかを判断する上で考慮すべきことだと理解しております。先ほど話がありましたように、近年登録された3つ、4つぐらいの世界文化遺産サイトでは、登録直後にぐっと来訪者が増えて、その後、落ち込む傾向が出ているかと思います。これはやはり問題があると多くの人を感じていると思いますので、そもそもどれぐらいの来訪者を想定しているのか、一つ一つの構成資産の来訪者キャパがどれぐらいかということを推薦書の中で明記することを、チェックリストのようなものを通して求めても良いのかと思いました。北海道・北東北の縄文遺跡群の申請書では、それが部分的に達成されていましたが、今後はチェックリストの必須項目の1つにしても良いのではないのでしょうか。

それから最後に、2番目の矢印の一番下の白丸ですけれども、記載後の対応ということになります。自治体は記載登録まで一生懸命頑張って、一度それが達成されると、スタッフの数を減らしたり、予算を減らしたりということにならないように、記載後もちゃんとコミットするということを、何らかの形で言質を取りたいところであります。

これは私が考えたというよりは、先ほど事務局と話していて、むしろ事務局の方々が提案されていたことですが、例えば議会の議決ですとか市長宣言のような形で、登録後もちゃんとコミットするということを何らかの形で公式に表明しているかどうか、これはチェックリストに入れなくても良いのかもかもしれませんが、そうした言質が推薦書に入っていたら、評

価値をあげるといふようなことを考えても良いと思ひました。

以上、具体的な方策といふことで、3つ申し上げました。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。方策についても是非具体的な御意見を頂ければと思ひます。多言語のハンドブックを文化庁でいいものを出しておられるといふことなので、是非そのようなことは、ある意味では、全国的に講習会みたいなのをやっていたらいいのかといふ気もいたしましたけれども、それを踏まえて、グッドジョブも踏まえて、既存の世界遺産だとか、あるいはこれからそれを目指しているところの、それを連携して情報を共有できるような場といふものがやはり必要かと思ひました。

オンラインで、館野委員から手が挙がっておりますので、館野委員、お願いいたします。

【館野委員】 地域コミュニティの重要性といふことに関して感想を申し上げたいと思ひます。その地域で世界遺産になっている資産だけでは、その地域の歴史を語ることはできないと思ひます。同じような性格を持っていながら、保存状況等々の問題で世界遺産に登録されなかったものもありますし、少しコンセプトから外れるといふことで、なれなかったといふものもあるわけなのですよね。それによつて、要するに、同じような地域でありながら、自分のところのものは世界遺産になっている、自分のところはないといふような、このような分断みたいなことが起こつてはいけないと思ひます。

その地域の歴史を語るには、世界遺産になっているもの、なっていないものも含めて、総合的に語る必要があると思ひますので、世界遺産だけの教育といひますか、理解を進めるといふだけでは、やや不十分なような気がします。世界遺産になっているもの、なっていないものも含め、様々な遺産全体で、その地域の歴史を理解していただくといふ手だてといふか、工夫が必要なのではないかと思ひます。

あともう1つは、どうしても、これは世界遺産になっているから重要なのだといふとき、やはり国内レベルの話になっているようなこともあるかと思ひます。要するに、地域の人たちに、この資産は、世界的に見て、人類史的に見て、このような重要性があるのだといふことを分かつていただけるような、そのような工夫といふもの、あるいは理解していただくためのいろいろな手だても必要ではないかと思ひます。

以上です。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。今の御意見も、これまでのバッファも重要だとか、あるいは無形だとか自然だとかのジオパーク等との連携も必要ではないかといふ多様性のことと併せて、必要な御意見ではないのかと思ひました。

ほかにかがででしょうか。

大森委員、お願いします。

【大森委員】 どうもありがとうございます。2点ございまして、7ページの論点の2番目の災害等からの復旧や防災対策ですけれども、自然災害の場合、自治体全体が被災したりして、すぐに動けない場合が多いですね。ですので、他の市町村や自治体との連携ですとか、被災したときにどういう手当ををするというような、あらかじめ協定みたいなものを結んでおく必要があるのではないかと感じております。

特に文化財関係は普通の救助あるいは復旧とは違いますので、デリケートな支援が必要になりますので、被災を受けた自治体が動けない場合が多々ございまして、周辺市町村との協力ですとか連携を組んでおくことが重要ではないかと感じております。

それから2点目は、地域コミュニティの重要性ですが、これも今までたくさん論議されていますし、コミュニティというのは、別に資産を持っているところだけではなくて、バッファの人たちもそうだとということが議論されておりますが、コミュニティをもっと強化するというか、それ以外の外の方たち、ここではボランティアの積極的な参加とは書いてございますけれども、コミュニティの範囲をもっと広げて、階層性を持たせて強化していく必要があるのではないかと思います。

特に過疎化している地域におきましては、地域に住んでいる方あるいはバッファに住んでいる方だけではとても対応できない場合もございまして、コミュニティをもう少し広げて、概念を広げて強化するというのが必要ではないかと感じております。

以上です。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。最初の方の災害の問題で、周辺の自治体との連携ということであれば、今、各都道府県で大綱をつくっておられたりして、そのような中では県内の災害についても必ず考えていただいて、連携を考えていただくということであると思いますが、あるいは県境を越えた場合もあると思うので、このようなことについて私たちが目を向けていかななくてはいけないのかと思いました。

あと、ほかにかがででしょうか。

黒田委員、お願いします。

【黒田委員】 2点ありまして、1点はこれまで皆さんが御発言された繰り返しになってしまうのですが、やはり登録された地域の方が国際交流できるといいと思っています。それで、論点なのか方策の方なのか分かりませんが、日本の情報を世界に発信するだけでは

なくて、地域の方が世界とつながるような交流、世界の中で自分たちが、世界にとって大事だということを認識できるような相互のやり取りができるといいと思っています。そして、自治体によってそのようなノウハウがあるところとないところの差が激しいと思いますので、何らかの支援とか仕組みがあるといいと思っています。

2番目は、これも何人かの委員の先生が御発言されていましたが、登録資産については、文化遺産は文化財指定ということで、これまで来ていて大丈夫かと思います。しかし、緩衝地帯について、制度そのものも必要なのではないか、緩衝地帯の新しい制度なのか、既存の制度にそれを加えていくのかはまだ分かりませんが、制度にそれを乗っけていくということも踏み込んで必要なかと思っています。

以上です。よろしくお願ひします。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。

大分時間がたってきましたが、ほかに御発言ございませんでしょうか。

では、お願ひします。

【佐々木委員】 佐々木でございます。論点に関して何か付け加えることがあるのかという議論だと思っていたので、論点のこの項目に関してはかなり網羅的になっていて、大丈夫かなと思いつつ、ほかの委員の先生方の話を聞きながら、私も改めて非常に勉強になりました。

その上で、私としては、論点1の一番上にある世界遺産一覧表に記載されることにどのような意義があるかの4つの白丸のサブ項目をもう一度確認するというのが、今日、先生方からたくさん御意見が出たので、重要なかなと思いつつ、本当に原点というか、なぜ文化遺産は必要なのかとか、文化遺産を大事にするの意義は何という、この業界にいる方にとってはあまりに当たり前のことを、もう一度明快な言葉でつづることは必要なかなと思ったりしました。

それは、先ほど、先生のお名前を忘れてしまいました。文化の理解が教育の質を高めるという文言を上げていただいたように、文化というのは、そこに行って、見て、楽しいというエンターテインメントの対象ではなくて、他者に対するリスペクトだったり、相互理解だったり、それが言ってみれば世界平和になるというような、そのような基本的なところを私自身ももう一度確認したいです。その上で、では、日本の重要文化財とか国宝と世界遺産はどう違うとか、あるいはもう少し皆さんが自由にやっておられる日本遺産とか、もっとフレンドリーに地元でやっている世間遺産なんていって、私の友達なども楽しくやっておら

れますが、そのようなこととの関連性というのをもう一度つづっていくことは、とても必要だろうと改めて思いました。

それと、これもいろいろな先生方の御発言の背景にあることだと思いますが、やはり地方自治体の職員の方の体力のもろさですね、これは都市計画であったり、景観計画であったり、地方自治体が主体的につくる計画のお手伝いをしている中で、日々感じることです。

そういった分野においては、時々、我々もそうですが、大学がある種ボランティアに調査にいたり、サゼスチョンしたりという形で支えているところもままあるわけですので、この文化遺産に関わる計画づくり、保全・活用の具体の問題を、そういった形でサポートに入る大学のスタッフとかの数は、必ずしも十分ではないのではないかと想像いたしますので、少し遠回りになるかもしれませんが、そういった専門家、専門的な主体の育成というもの、基本的な実行を担保する対応として、是非これを機に文化庁からも声を上げていていただきたいなど、そのような感想を持ちました。

以上です。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。

あと、特にまだ発言したいことがあるという方がおられたら、挙手をお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。

それでは、これまでの様々な議論を踏まえて、これからさらに進んでいくということをお願いしたいと思います。

続きまして、今日の説明事項3のヒアリングについて、今後の流れについて、事務局から説明をお願いします。

【山田文化遺産国際協力室長】 資料3、11ページを御覧ください。関係者へのヒアリングについてということで、次回この会で、何名かお越しいただいて、実際にお話を伺う機会を設けてはどうかということの御提案でございます。

ここに案として掲げておりますのは4者、4つの立場の方にいらしていただいて、それぞれ例えば15分ずつ御発表と質疑というような形でやってはどうかという御提案でございます。まず1点目は日本イコモスさんにお話を頂く。世界遺産登録の意義とか、保存・活用に係る課題と今後の在り方、一覧表の充実と、まさに諮問項目全てでございますけれども、そういったことについて御意見をお聞きしてはどうかということと、2番目に、大変重要な自治体の関係者のお声を聞いてはどうかということで、例えば石見でコミュニティとともに歩んでいらっしゃる様子、あるいはそのときにこれまで生じた課題ですとか、そういったこ

とをお聞きすることでしたり、2番目に、奈良県さんが都市の中に多くのサイトを抱えていらっしゃるという立場から、どのようなことに取り組んで、あるいはどのようなことを課題と認識していらっしゃるのかということをお聞きする。また、3番目、日本で最初に登録されたグループに入っているという観点から、姫路城について、その後、登録後にいろいろユネスコ周り、その他の世界の状況が変わってきて、求められるものも変わってきているといったことをどう受け止めていらっしゃるかって、どう対応されているかといったことをお聞きするということが、それぞれ有意義かなと思って挙げさせていただいております。

御提案をしておりますのは、ヒアリング項目といたしましては、登録前後から現在までの変遷と課題、登録の影響、登録後の取組と効果、今後の課題、持続可能な保存・活用を実現するためのイメージを実施するに当たっての効果と課題、これは先ほど2のところの方策案をお示しましたが、仮にこのようなことをするといったら、あなたたちはどう思いますかということをお聞きするというようなことを事務局からはお示ししているところがございますので、是非先生方の御意見を頂戴したいと思います。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。それでは、ただいま次回ヒアリングをしてみたいということでの御提案だと思いますが、これに関して御質問や御意見ありましたらお願いしたいのですが、それでは、松田委員。

【松田部会長代理】 ヒアリング項目に関してなんですけれども、5つ挙がっているのですが、このような今の状況ですので、新型コロナウイルス対策についても、あまりこれに時間を取ってはいけないと思いますが、ごく短くて大丈夫ですので、必ず言及していただけるようお願いされると良いかと思いました。

実際、諮問の理由の中にもコロナのことは5ページの一番下に書いてありましたし、やはり大きな問題に取り組んでいるということで、この状況は知りたいと思っております。

今朝方、ユネスコの世界遺産センターのウェブサイトを見ていたら、世界遺産サイト全体のうち、文化と自然、複合、全部合わせたものなのですが、春の時点だと10%ぐらいしか公開していなかった、すなわち逆にいうと9割ぐらいは閉鎖していたのが、今、秋になって35%ぐらいまでオープンになったということでした。かなり再開してきたものの、まだまだ閉めている所も世界的には多いというようなことを考えましても、今、日本の状況がどうなっているのかということについて、ヒアリングの中で、とりわけ自治体の方々から発言していただけるとありがたいです。

以上です。

【佐藤部会長】 ヒアリング項目も含めて、御意見あるいは御質問、それでは、藤原委員。

【藤原委員】 関係者ということで日本イコモス、それから自治体関係者にこうやってお話をしていただくのは大変結構なことだと思いますが、20年ほど前から、国内の文化財保護法の中での指定文化財、それから登録有形、登録ができ、なおかつ未指定がある、では、それをどうしたらいいかというときに、実は文化庁では、住民の皆さん、住民活動の皆さんへのヒアリングを随分積極的におやりになっていただきました。私もいろいろ介在して、一緒にお話を聞かせていただいたりしてきたわけですが、やはり今日のこれまでの流れを聞いていますと、関係者の中に本当の住民の方々が含まれていくということがとても大切ではないかなと思います。

もし余力があれば、何か世界遺産まちづくりみたいなもので、とても大きく顕著な活動実績あるいは活動成果みたいなものを生み出しておられる方々に、直接私どもがお話を聞かせていただくことはできませんでしょうか。

【佐藤部会長】 この点について、事務局、いかがでしょう。

【山田文化遺産国際協力室長】 打診をしてみないといけないと思うのですが、これは打診を前に名指しで言うのもあれなのですけれども、例えばこの3自治体の方をお呼びすることになっているのですが、その自治体の方と一緒にどこかにおいでいただいて、一緒に住民としての立場をお話いただくとかということが可能だったら、お願いをしてみるということはあるかと思いますが、例えば2時間でやろうとして、これ以上増やすと、1自治体30分以下だと、わざわざお越しいただくのも申し訳ないかなと思うので、そのような打診をするので、よろしければさせていただくとか、あるいは先生方のお時間を2時間半お取りさせていただいて、1個追加させていただくとか、そのような感じでしょうか。

【佐藤部会長】 先ほど方策の中にも、専門家や文化庁により定期的に保全状況を確認して、これは現地に行くということであれば、そのような中でも住民の方の御意見を聞くということは可能かと思えます。

今回のヒアリングをどれぐらいの時間でやるかということと関係すると思いますが、可能であれば、そのような方においでいただいてもいいのかなという気はいたしますが、それがどう可能かということは検討していただければと思います。

【山田文化遺産国際協力室長】 事務局で検討いたしまして、部会長と御相談をした上で、藤原先生にお返ししたいと考えます。すいません、ありがとうございます。

【佐藤部会長】 ほかにいかがでしょうか。では、岩本委員。

【岩本委員】 ヒアリング項目の中に当然含まれているのかもしれませんが、観点をかなり細かくこうやってコミュニティ参画とか都市部の世界遺産というふうに行っているものですから、もっと大局的に、登録前と登録後の自治体の振興計画なり、国際戦略の中での世界遺産をどのように位置付けているかと。もう登録されたからこれで万歳、これで後はそのままみたいなことでは困るわけで、そこら辺が聞けたらいいというのが1つございます。

それから、島根県大田市、ここはユネスコスクール等を通じて世界遺産教育を非常に熱心にやっていたりするので、そこで学校教育なり、あるいはノンフォーマルのコミュニティ、公民館とか、そういったところでの関係者みたいなものがもしそこに入っていれば、生の声もお聞きできるのかなと。これは希望でございます。ありがとうございます。

【佐藤部会長】 ありがとうございます。御検討いただいて、ヒアリングの持ち方、時間だとか、そのようなことにもよるかなとは思いますが、ぜひ御検討いただければと思います。

ほかにもございませんでしょうか。では、二神委員。

【二神委員】 二神です。質問ですけれども、すいません、大きな声で話します。ここで挙げていらっしゃる自治体というか世界遺産は、比較的古くに登録されているところが多くて、一番新しいのが多分石見かと。それが2007年だったかと思うのですが、それよりも新しいところを今回の対象としていないことについては、何か理由があるのでしょうか。

もちろんこれらの取組はとても大事なことだと思うのですが、ただ、大分状況が変わっていますし、登録のプロセス自体もとても変わっているということがあるので、その辺り、どうしてこの3か所を選ばれたのかを教えてくださいませんか。

【山田文化遺産国際協力室長】 ありがとうございます。例えば古墳群だとかは登録したばかりで、その後どうなっているのかといったことを、ここでヒアリングをしても前と後のフォローがしにくいかなということもあり、数があまり多くてもということで、この3つを選んだということです。

御指摘のとおり、石見ぐらいまでの登録・推薦のプロセスと現在はかなり様子が違っているとお聞きしておりますので、現状はこうでございますが、先生方の御日程を押さえられれば、追加も検討させていただきたいと思っております。

【佐藤部会長】 どのようなところか……。どうぞ。

【西川文化財調査官】 少し補足させていただくと、先ほど室長から、どのような観点からということも御紹介いただいたのと、あと、それぞれの資産の特徴、モニュメント的な姫

路城から、社寺を中心としたシリアル、さらには文化的景観といった、そのような特徴であったり、所在地が比較的都心に近い部分にあるものから、地方に所在するものと、いろいろな観点からバラエティーを持った資産の担当者の方で、県のレベル、市のレベルと考えたときに、3つぐらいだとかこういったものがないかなというのが、今回、選んだ理由になっております。

【佐藤部会長】 もしこのようなところの話も聞きたいというのがおありでしたら、個別に挙げていただいてもよろしいかとは思いますが、今回、多分これ、1日だと思しますので、1か所につき、そのように長く聞けないですね。

【山田文化遺産国際協力室長】 15分御説明で15分質疑を4つやってかなと。

【佐藤部会長】 少し短い感じはいたしますね。

【山田文化遺産国際協力室長】 そこも含めて、対象はこの4つだとしても、もし先生方のお時間を賜われれば、もう少し会議の時間を長くさせていただいて、ずっと聞けないという委員の先生がいらっしゃるかもしれませんが、時間の持ち方も、3時間にすれば20分20分いけますかね。最低そのぐらいですか。もう少し。

【佐藤部会長】 いかがでしょうか。

【二神委員】 私が自分でもインタビューに行く場合、最低でも1時間半とか2時間とかは話を聞きます。でも、それは1か所にお邪魔してお話を聞くというやり方なので、もちろんそれがこの場で無理だということは大変よく分かります。できるだけ多くの方のお話を聞くこともとても大事だと思いますので、もちろん私と同じように時間をとってくださいとお願ひはしません。ただ、例えば事前にある程度資料を御提供いただくであるとか、もちろん自治体の皆様にも御負担をおかけしてしまうのですけれども、できるだけ時間を短く、効率的にできるよう、アンケートなのか何なのかというのは少し考えないといけないと思いますが、そのような方法も併せて御検討いただければと思います。あと、私どももできるだけ時間を確保できるように努力する必要があるのかなと思いました。

【佐藤部会長】 そうですね、1件につき15分の説明と15分の質疑よりも、少し時間があるといいかと、今、二神委員の御意見を伺って、思いました。

その点はいかがでしょう。

【山田文化遺産国際協力室長】 我々も今の御意見を踏まえて、自治体さんになるべく早く資料の御提供を頂いて、先生方にあらかじめお見せした上でやるとか、運用面の改善と、あとは、開催時間をもし長くさせていただいてよろしければ、先生方の出入りを前提として、

また部会長に御相談させていただきたいと思います。ありがとうございます。

【佐藤部会長】 多分これはうまく機能すれば有益な会議になると思いますので、その際に、私が少し気になるのは、このような言い方は良くないでしょうか、グッドジョブだけを表明される、優等生の発言だけをなさるのではなくて、このような課題だとか、このようにしたらよかったというようなこともあったということも腹藏なく発言してもらえるような会であるといいと思うので、その点になると、例えば公開かどうかということも含めて御検討していただければと思います。そのようなことでよろしいでしょうか。

それでは、このことについては終えまして、次回の予定等について、そろそろ時間でありますけれども、今日の会議、ここまでということにして、最後に事務局から連絡をお願いいたします。

【山田文化遺産国際協力室長】 本日もまた通信環境等で御迷惑をおかけして大変申し訳ございませんでした。

次回の日程につきましては、時間の配分も含めまして、頂いた御意見を含めて検討させていただいて、部会長に御相談した上で、追って御連絡を差し上げたいと思います。ありがとうございます。

【佐藤部会長】 それでは、これで終えたいと思いますが、最後に一言でも何か御発言したいという方がおられれば、手を挙げていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、本日はどうもありがとうございました。皆様、御多用中のところ、どうもありがとうございました。次回も是非よろしくお願いいたします。これにて世界文化遺産部会を終了いたします。ありがとうございました。

— 了 —